

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0439 ◆◆◆

17/07/05

【 7月にドルは目先天井示現も!? 】

為替市場で円全面安が進行している。ドル/円は優に及ばず、ユーロ/円やポンド/円、豪ドル/円などの円クロスも軒並み堅調裡。

リスクは基本的に上向き、ドル/円で言えばドル高・円安で間違いないものの、若干気になるのは、今年に入ってから「パターン」だろう。詳細は、実際のチャートを見てほしいのだが、今年のドル/円は「奇数月にドルの天井をつけ、偶数月にドルの底値をつける」一展開がみてとれる。そして、足もと7月は当然「奇数月」だ。大方の思惑と裏腹に、ドルのさらなる上昇にも実は限界があるのかも知れない。

◎夏枯れも影響か、「動くか動かないか」値動き両極端

今回の当レターでは、恒例となっている7月の月間見通しについてレポートするが、その前にまずは7月相場の星取表を見てみると、1990年以降昨年までの27年間で15勝12敗となっている。若干ドル高が有利ではあるものの、それほど大きく偏っているわけではなく、大きな特徴とはいえない内容だ。しかし、別の観点から見た場合、幾つか興味深い事象が2つうかがえる。

特徴のひとつが、過去の7月相場は「動くか動かないか比較的極端」な値動きをたどることが多いことだろう。例えば、昨2016年は前者である「よく動く」1ヵ月だったことがデータからうかがえる。前月が月間変動幅11.83円、11月には年間の最大変動幅となる13.36円も動いたことで、若干かすみがちだが、それでも変動幅7.50円で堂々の年間4位を記録していた。

いずれにしても、参加者が徐々にサマーバカンス入りするため流動性が乏しくなり、基本は小動きが予想されるのだが、相場が一旦動意づくると一気に波乱含みの様相を呈する可能性を否定できない気もしている。とくに今年は各国政治ファクターや地政学リスクを内包した国際情勢など材料がもりだくさんであるため、油断は禁物であるかもしれない。

一方、もうひとつ7月相場の特徴として挙げられるのは、月初or月末のいずれかに、月間のドル高値かドル安値を記録するケースが少なくないことか。

一例を挙げると、「月足が陰線」になった2010年は月初2日にドルは月間高値を示現後、月末にかけて緩やかな右肩下がりの展開をたどっている。同様に月足の陽線記録を途切れさせた2007年も「月初に月間のドル高値を示現」するパターンをたどる反面、2005年や2004年は逆に「月初に月間のドル安値」を記録するパターンだった。それに対して、2011年や2013年は「月末に月間のドル安値」、2014年や昨2015年は逆に「月末に月間のドル高値」を記録するパターンとなっていた。

なお、全4パターンのうち、今年の相場がどれをなぞったような展開になるのかわからないが、ここで興味深いのが先で指摘した今年の「奇数月にドルの天井をつけ、偶数月にドルの底値をつける」一という年初来の相場パターンとの絡みだろう。今年の展開をさらに詳細に見てみると、奇数月のドル天井は「上旬」に達成していることがうかがえる。

つまり、今年年初来の相場パターンに、過去の経験則を合わせて考えると、今年の7月相場は「月の初めに月間高値を示現後、月末にかけて緩やかな右肩下がりの展開」一をたどっても不思議はないかも知れない。飽くまでも「当たるも八卦当たらぬも八卦」であり、実際にどういった展開をたどるのは未知数だが、興味のある方は是非とも参考にさせていただければと思う。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

